

令和5年1月 市長定例記者会見

令和5年1月4日(水)

午後1時30分 開始

【秘書広報課長補佐】 それでは、ただ今より令和5年1月市長定例記者会見を始めさせていただきます。

会見の進行につきましては、最初に市長の挨拶、その後、事業発表をさせていただきます。事業発表に係る質疑応答の後に、フリーの質疑応答とさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

なお、ご質問の際は、挙手の上、所属名をお願いいたします。発言の際はマイクのスイッチをお願いいたします。

終了は14時30分を予定しておりますので、ご協力をお願いいたします。

それでは、市長、よろしくお願いいたします。

【市長】 新年明けましておめでとうございます。

記者の皆さんにおかれましても、輝かしい令和5年の新春をお迎えになりましたことと心からお喜び申し上げます。今年もよろしくお願いいたします。

年末年始、心配してました雪も降らず、今日はちょっと降り一部除雪車が出ているようですが、大したことがなくてよかったと思っております。

そして、新型コロナウイルスにつきましても、検査数も減り、今日の発表項目であります20歳のつどいと消防団の出初式も無事にできるんじゃないかと期待しているところでございます。

年賀会でもご挨拶しましたので、たくさんのごことは言いませんけれども、今年1年間いい年になりますよう、すばらしい年になりますよう努力してまいりますので、よろしくお願いいたします。

【秘書広報課長補佐】 続きまして、事業発表をお願いします。

【市長】 事業発表につきましては、2つございます。

1つ目は、第1回敦賀市20歳のつどい（旧成人式）の開催についてでございます。

例年開催しております敦賀市成人式につきましては、令和4年4月1日施行の民法の一部を改正する法律により、成年年齢が20歳から18歳に引き下げられたことから、名称を「敦賀市20歳のつどい」に変更し、1月8日に開催いたします。

新型コロナウイルス感染防止対策として、会場は前回の成人式と同様、プラザ萬象大ホールと小ホールに分散いたします。また、感染状況により出席できない方、体調不良で参加できない方、また保護者やご家族に配慮するため、ユーチューブを活用したオンラインライブ配信を実施いたします。そのほか、入場時の参加者の手指消毒、検温等、新型コロナウイルス感染防止対策を徹底し、開催いたします。

20歳を迎えた成人の新しい人生の門出を祝う式典にしたいと考えております。

2つ目につきましては、敦賀消防団出初式の実施についてでございます。

お手元に資料を配付していますが、消防団員の士気の高揚を図るとともに、近代消防装備と精錬された消防団員の意気を公開することにより、市民の防火意識を高めることを目的としまして、令和5年1月9日の祝日に新春恒例の出初式を挙行いたします。

また当日、きらめきみなと館イベントホールにおきまして、敦賀消防団消防隊つるが

薦によるはしご乗り実演を披露いたします。どうぞよろしく願いいたします。

発表項目は以上2つでございます。よろしく願います。

【秘書広報課長補佐】 それでは、ただいま発表いたしました項目につきまして質問を受けたいと思います。最初に幹事社さんのほうからお願いいたします。

〔なし〕

【秘書広報課長補佐】 それでは、各社にお伺いいたします。発表項目につきまして質問がございましたら挙手をお願いいたします。

【記者】 20歳のつどいですがけれども、第1回ということで、名称以外で何か変わったものはあるのでしょうか。

【教育委員会事務局長】 今回、名称以外に特に変わったことはございません。ただ、アトラクションの時間帯が10分程度延びたりとかはございますが、内容自体はかつての成人式と変わっておりません。

以上です。

【秘書広報課長補佐】 ほかにいかがでしょうか。

〔なし〕

【秘書広報課長補佐】 それでは、次第の3番目、フリーの質疑へと移りたいと思います。これも幹事社さんのほうからお願いいたします。

【記者】 12月の敦賀2号機の審査の再開の件について1つお伺いします。

柱状図の書換えを受けて、2年ぶりに12月9日に審査会合が再開されました。その再開された初回の審査資料の中で、またさらに160か所にも及ぶ誤記というか修正が必要な箇所が見つかったという報告が原電さんからありました。

一連の審査資料に関しては、修正が施された必要なところというのが1300か所に上るといふようなことで、このような審査資料を出すのは日本原電しかないという厳しいコメントを規制委員会が出しています。

市長として、この審査の基本になる資料が正しく書かれていないという状況が相変わらず続いているということに関して、どのような感想を持っていますでしょうか。

【市長】 再開されてよかったと思っているんですが、おっしゃるように一部やり直しというところがあったと聞いています。

その内容につきましては、資料の訂正があったところについての報告する分類がもともとどういうふうなものだったかということの仕分けができていなかったと。誤記で例えば赤と白でつけてねというところが全部赤で書いてあったとか、そういう見直しだと聞いておりますので、それについては修正すれば通常再開だと感じています。

【記者】 受け止めとしては、審査資料がこれだけ間違いがあるということが続いているということはかなり重く受け止めていますでしょうか。

【市長】 今、申しましたように、間違いじゃなくて、付箋の仕分けが赤と白でもいいですしAとBでもいいですがけれども、AとBに分けなさいよというところを指示されたんだと思っていますので、規制委員会の言うとおりに作り直せばいいんだと思っています。それがわざと違っていたとか間違ったとかじゃなくて、こういう仕分けをしたほうが自分たち審査しやすいよというメッセージだったんじゃないかなと思っています。

【記者】 今の敦賀2号機も絡む話ではあるのですがけれども、年末に原子力政策に関して

政府から新しい方針が出ました。夏の時点で市長としては、3・4号機の計画がもともとあったから今後また期待したいという趣旨の発言をされていたかなと思うんですけども、今の2号機の話とも絡めてなんですけど、例えば2号機の審査が進んで2号機の稼働が始まらないうちに3・4号機の計画が具体化するというのは、それは市長としてはありなんでしょうか。

【市長】 どうなっていくかというのは私には細かい分類は分かりませんが、3・4号機、新增設ではなくて、1号機のリプレースという意味合いの中で3・4号機はありなかなと感じています。

技術的なまた新しい制度設計とか開発することになるでしょうから、設計から始まると思いますので、2号機の審査をやりながら3・4号機の設計をするというのは、ありんじゃないかなと思います。

【記者】 分かりました。ありがとうございます。

【秘書広報課長補佐】 それでは、各社にお伺いいたします。ご質問がございましたら挙手をお願いいたします。

【記者】 今までの2人の質問と関連していますけれども、まずは年末のGX実行会議での新たなというか政府の方針ですね。そこについての評価と受け止めをお願いします。

【市長】 GX実行会議の中で示されました運転延長ですね。止まっていた期間を一部カウントしないということによって、審査が長引いて廃炉になるしかないところを救われていくんだと思っていますし、今ほど少しお話が出ましたけれども、新增設とかリプレースの中で新たなものを建てていこうとしますと設計からやらなくてはいけないと思いますので、そうすると既存のものの延長というタイムスケジュールと新しいものの建設ということになりますと、時間がずれると思うんです、何十年か。10年、20年、30年というスパンでずれると思いますので、そういうふうな両方ともを進めていこうというお話があったんだと思っています。

その中で、敦賀としますと3・4号機の期待というのがありますので、リプレースもしくは建設ということに対しては非常にありがたい判断だと思っていますし、2号機もありますので、延長ということも一つの選択肢の中に入っていくと思います。

ただ、地元としてはやはり安全が第一です。まず安全性を確認した上で、時間が延長できるのかということの議論というのはあるべきだと思っています。今の判断の中では多分、政治的な判断が大部分を占めているんじゃないかなと思っていますので、技術的なところで止まっている時間はカウントしなくていいというのが示されるとうれしいなと思っています。

【記者】 あと、もう一つ大きなくくりで、これまで市長が全原協会長として、力強い原子力政策とか、そういうような言い方で直接中央に要望に行かれたりとか長いことされてきたと思います。そういった意味で、今回、大きな方針が示されたということについての受け止めをお願いします。

【市長】 私たちが求めてきた中に、エネルギー基本計画の改定ということがお願いに入っていたんです。今回のグリーントランスフォーメーションの中では、エネ基の改定は必要なくて、その中でやっているよという説明がありましたので、そういうふうに読み替えもできるんだというのは改めて知ったところです。エネ基の改定をして、しっかりとした

形で毎年更新していく中での変更を期待します。

ただ、もう一つ言いますと、今回の方針の中に、再エネと原子力を進めていく中で、ベースロード電源となり得るもの、CO₂フリーの中のベースロード電源となり得るものは原子力しかないんじゃないかなと述べられており納得したところです。

なので、原子力は将来的に必要なものであると示されたんじゃないかなと期待していますので、エネ基の改定の中にそういう文言が入っていくといいなと思っています。

【記者】 先程の原子力発電所の質問にも関連してなんですけれども、GX実行会議で先程も話題に出た大まかな方針が示されたのと同時に、規制委員会やNRAは、運転開始30年以降10年ごとに劣化状況などをチェックしていくという枠組みを示しています。こちらについてはどう評価されるかを教えてください。

【市長】 規制庁、規制委員会のほうの審査の基準というのを示されたわけなんですけれども、そこは私ども関知しないのでよく分かりません。私たちが望んでいるのは早く審査をしてほしいという1点だけです。そんなことを示されても審査するのに5年、10年かかったら何にもならないので、しっかりと審査を進めて迅速にやってほしいというところが正直なところなんです。

【記者】 すみません、あと1点。こちらの理解が浅いのかもしれないんですけれども、先程も話題に出た3号機というプランについては、市長としては政府が言うリプレースに当てはまるというお考えという理解でいいのでしょうか。

【市長】 そうですね。1号機が廃炉になる前に、新しい新增設として3・4号機の増設して敷地ができていますけれども、1号機が廃炉になりましたのでリプレースに該当すると考えています。

【秘書広報課長補佐】 ほかにいかがでしょうか。

〔なし〕

【秘書広報課長補佐】 それでは、これをもちまして市長定例記者会見を終了いたします。ありがとうございました。

午後 1時 45分 終了